

# マラウイの無償保育者の活動継続要因 —コミュニティ運営型幼児教育を事例として

谷口 京子

広島大学

# 研究の背景

## 乳幼児ケアと就学前教育の拡充

### 開発目標

- 1990年万人のための教育 (Education for All: EFA) 世界会議
- 2000年「EFAダカール目標(2015年まで)」(1)就学前教育の拡大と改善
- 2015年「持続可能な開発目標：目標4」(2) 2030年までに男女区別なく、全ての子どもが質の高い乳幼児の発達・ケア、就学前教育にアクセス

### 早期介入の重要性

- 貧困削減
- 不平等の緩和
- 社会的・経済的コスト削減
- **身体的・社会情緒的・認知的・言語発達の助長**
- 非認知能力の育成、貧困層に効果(Heckman & Savelyev, 2012)

### フォーマル教育（初等教育）の準備

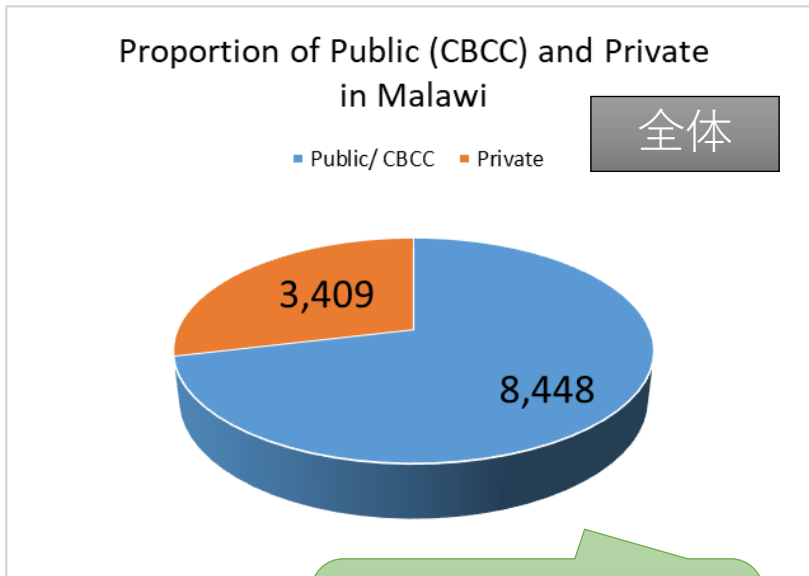
- **初等教育の低学年における留年や退学の減少**(Kholowa & Maluwa-Banda, 2008)
- 初等教育の学業成績への影響(Taniguchi, 2022)

# 研究の目的

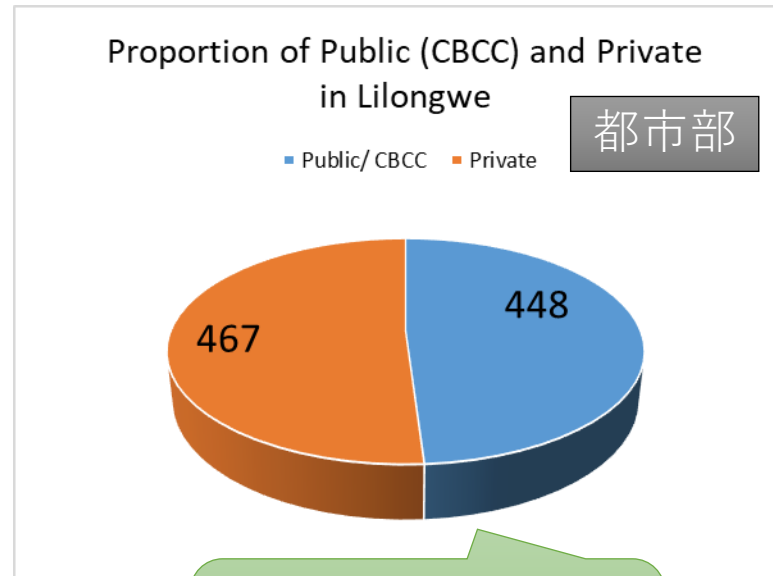
マラウイのコミュニティ・チャイルドケア・センター  
(Community-Based Community Centre: CBCC)の運営を支える  
無償のボランティア保育者の活動継続要因を明らかにする。

# マラウイの就学前施設の種類

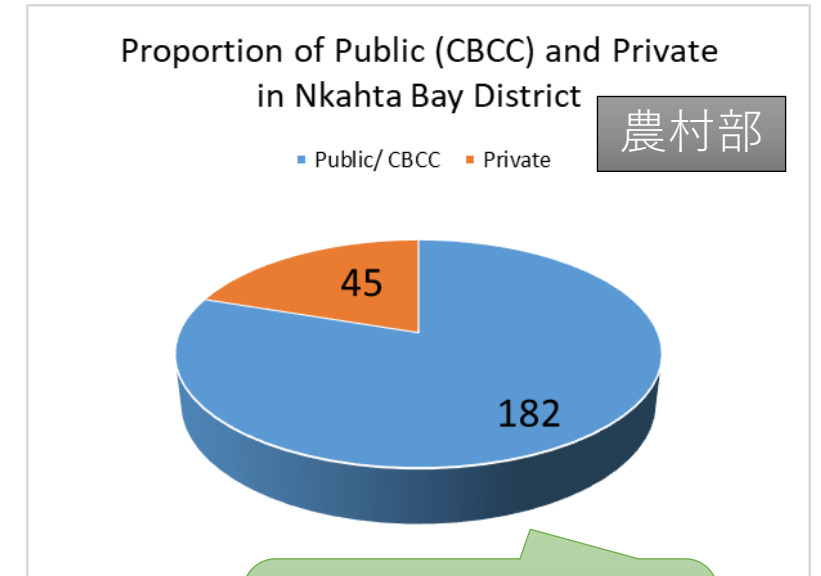
- 無償の施設: コミュニティ・チャイルドケア・センター (Community-Based Community Centre: CBCC)
- 有償の施設: ナーサリースクール (Nursery school)



就学前施設の  
7割がCBCC



就学前施設の  
5割がCBCC



就学前施設の  
8割がCBCC

出所: MoGCDSW (2021)

# マラウイの就学前施設へのアクセス

- 就学前施設の増加

7,801施設(2007年) → 12,220施設(2018年)

cf. 小学校数 : 6,194 (2017/18年)

ECD施設数の不足

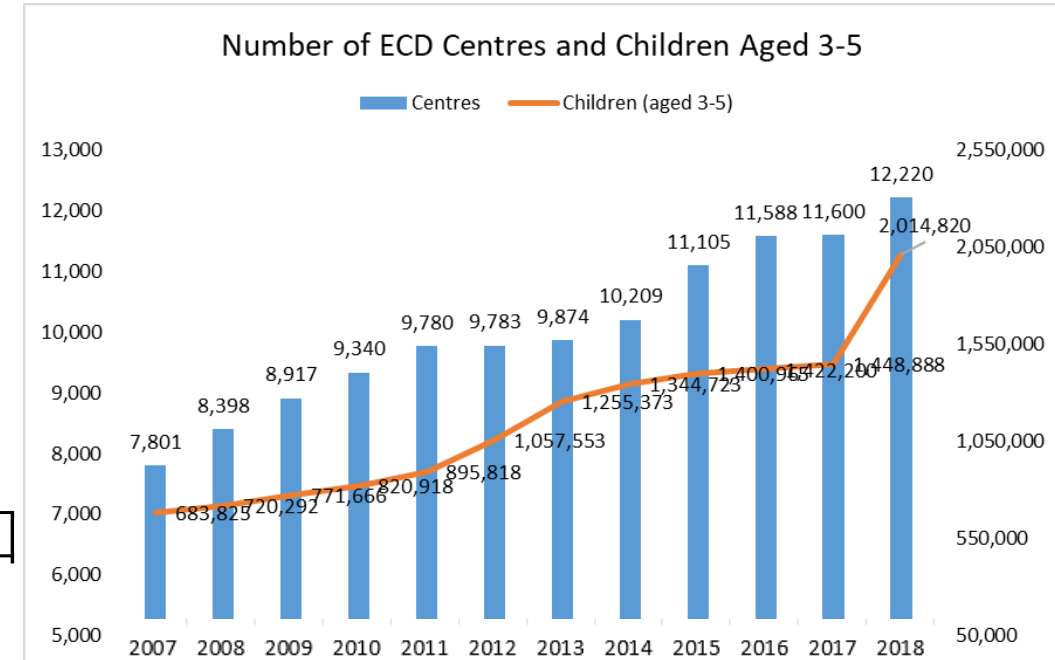
- 就学前施設へアクセスする3~5歳児の増加

683,825名(2007年) → 2,014,820名(2018年)

cf. 小学校の児童数 : 5,187,634 (2017/18年)

- 就学前施設へアクセスする3~5歳児の割合 : 48.7%(2018年)

2人に1人の3~5歳児しか就学前施設にアクセスできていない



(出所 : MoGCDSW, 2018)

# マラウイの保育者の状況

## トレーニングの種類

1. 14日間のトレーニング
2. 6ヶ月のトレーニング：2週間座学＋8週間ECDで実践を3回繰り返す

	全体	都市部 リロングウェ	農村部 ンカタベイ県
保育者数	35,063	2,157	595
トレーニングを受けた保育者数	16,575 (47.3%)	1,518 (70.4%)	384 (64.5%)
就学前1施設あたりの保育者数	3.02	2.36	2.62
就学前1施設あたりのトレーニングを受けた保育者数	1.43	1.66	1.69
保育者1人あたりの子ども数	41.84	90.15	52.42
トレーニングを受けた保育者1人あたりの子ども数	88.50	128.10	81.22

(出所：MoGCDSW, 2021)



保育者の不足  
トレーニングを受けた保育者の不足

# CBCCの運営

## 設立要件

- 場所の確保
- 保育者の確保

## 運営

- 保育者：2～4名
- CBCC委員会 の役員：0～10名
- 地域の子ども保護員：1名

## 保育者

- 種類
  - メンター
  - メンター以外
- 報酬
  - 一部のメンター：月にMK20,000 (2022年から)
  - それ以外：一般的に無償

# 先行研究

ボランティア動機の機能的アプローチ (Clary et al. 1998; Clary & Snyder, 1991; 桜井, 2002)

➤ VFI (Volunteer Functions Inventory) :

- 価値 (values) : 利他的動機や自己犠牲、信念によってボランティア活動を行う態度
- 理解 (understanding) : ボランティア活動が社会勉強や人生経験としてプラスであるとし、参加する態度
- 社会 (social) : 他人とふえあう機会としてボランティア活動を行う心理
- キャリア (carrier) : ボランティア活動に参加することで、知識や技術、能力を試す機会になり、キャリア開発につながる期待
- 防衛 (protective) : ネガティブな動機、自分より不幸な者を助けることで罪の意識を払拭したい、ボランティア活動に熱中することで自分の問題を忘れたいたいという意識
- 強化 (enhancement) : 自尊心や自己肯定感を高める

➤ 個人的属性による動機構造

- 性別 女性: 価値、理解、社会、強化
- 人種 白人: キャリア、理解、強化、防衛
- 年齢 若年: キャリア、理解 高年齢: 防衛
- 年収 高い: 価値 低い: キャリア、防衛
- 過去のボランティア経験 有: 全体的に動機が強い傾向、価値、社会、強化、\* キャリアは経験があるほど弱まる → ボランティア活動経験で内的動機が強まる

日本における複数動機アプローチ (桜井, 2022; 桜井, 2005)

➤ 利他心、自己成長、社会適応、技術習得・発揮、防衛、レクリエーション、利得・損失計算、規範的参加、理念の実現、テーマや対象への共感、自分探し

➤ 個人属性

- 性別、年齢、職業、過去の活動経験の有無で動機に有意な差があった
- 女性: 社会適応、男性: 自分探し

# 先行研究

## ボランティア活動の動機

- 活動自体の望ましさが明確である：深刻度認知・有効性認知（安藤・広瀬, 1999）
- 参加動機要因：利他心・理念の実現テーマや対象への共感（桜井, 2005）
- 計画の柔軟性（Cho, et al., 2020）
- 情緒的支援：他者からの認知・地域意識・楽しみ（米澤, 2010）、感謝（Cho, et al., 2020）
- 個人として得られるものがある（安藤・広瀬, 1999）
- 報酬（Cho, et al., 2020）

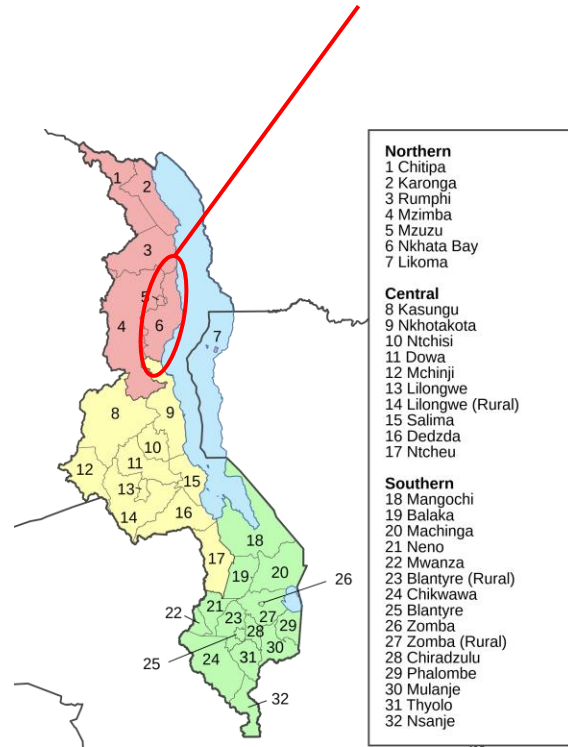
## ボランティア活動の継続要因

- スタッフ間の関係性、活動の意義、自分自身の楽しみ、元気になる、人手不足（田中ら, 2021; 谷原ら, 2022）
- 満足感、楽しさ（元嶋・杉山, 2022）

アフリカ地域の文脈でボランティア活動の継続要因がほとんど分析されていない

# 調査の概要

調査地域：ンカタベイ県



第1回目の調査

第2回目の調査

調査時期	2022年9月	2023年12月	2024年8～9月	2024年12月
施設数	10施設	5施設	5施設	5施設
保育者数	保育者24名	保育者19名	保育者5名	保育者5名
調査方法	半構造化インタビュー 参与観察	半構造化インタビュー 参与観察	半構造化インタビュー 参与観察	非構造化インタビュー 参与観察

2021年10月  
予備調査

# インタビュー内容

項目	内容
CBCCの状況	設立時期、施設の場所、子どもの数、子どもの年齢、保育者の数、運営時間、費用、ポリッジの有無、カリキュラム、教材など
子どもの状況	通学方法、近隣の小学校、子どもたちが行う遊びや勉強など
保育者の状況	保育者数、勤務期間、トレーニングの有無、1日の活動計画、教育観、性別、学歴、年齢、給料、 <b>保育者になった理由</b> 、施設の運営など
コミュニティや保護者	メンバー数、会合の頻度、サポート内容、教育観など
政府	モニタリングの頻度と内容など

## 分析

- 主題分析：逐語録→コーディングとカテゴリー化→パターンの分析

# 第1回目の調査（2022年9月）

# CBCC10施設の概要

CBCC	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
TA	M	M	O	N	N	M	O	N	M	M
設立	2012	2021	2004	2009	2009	1999	2004	2005	2017	2021
開園時間	8:00 - 12:00	8:00-12:00	7:30-10:30	8:00-11:30	8:00-11:30	7:30-12:00	8:00-12:00	8:00-10:30	7:30-11:00	9:00-11:00
園児数	47	35	22	74	115	48	42	45	45	65
保育者の数	2	3	2	4	4	3	4	4	2	4
施設	コミュニティ の建物	CBCC (2011年コミュ ニティによる 建設)	教会	CBCC (2012年ドナー による建設)	CBCC (2012年ドナー による建設)	CBCC (2005年ドナー による建設)	CBCC (2009年ドナー による建設)	CBCC (2011年ドナー による建設)	コミュニティ の建物	教会
施設費	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料
授業料	1ヶ月 MK1000(\$0.8)	無料	無料	無料	無料	無料 ポリッジ用の 粉: 50/月	無料	無料	1ヶ月 MK1000(\$0.8)	無料
ポリッジ	無	無	無	有	有	有	無	有	無	無
CBCC委員会の役員数	3	10	10	10	10	10	8	0	10	10
CBCC委員会の会合の頻度	無	1ヶ月に1回	無	1学期に6回	1学期に6回	1ヶ月に1回	1学期に1回	無	常にWhatsApp group	1ヶ月に1回
コミュニティのサポート	無	施設建設	無	ポリッジの準 備清掃	ポリッジの準 備 清掃 教材準備	ポリッジの準 備	無	ポリッジの準 備清掃 施設建設	清掃	清掃

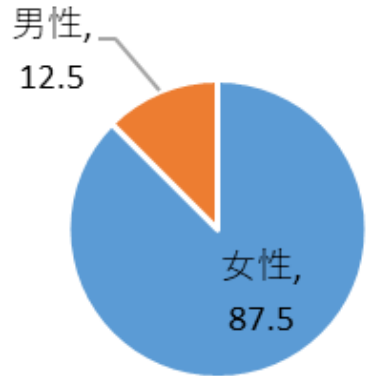
# インタビュー調査した保育者24名

保育者	A1	A2	B1	B2	C1	C2	D1	D2	D3	E1	E2	E3	E4
CBCC	A	A	B	B	C	C	D	D	D	E	E	E	E
性別	女性	男性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性
年齢	50代	30代	50代	50代	40代	30代	60代	30代	60代	50代	40代	40代	50代
教育水準	初等教育	前期中高等学校	初等教育	カレッジ	後期中高等教育	後期中高等教育	初等教育	前期中高等学校	初等教育	初等教育	前期中高等学校	前期中高等学校	前期中高等学校
勤務年数(年)	22	7	1	1	12	11	12	12	11	6	5	5	13
トレーニングの回数	1	無	1	無	1	1	3	3	3	2	1	1	3
給料	無	無	無	無	無	無	有	有	有	有	有	有	有

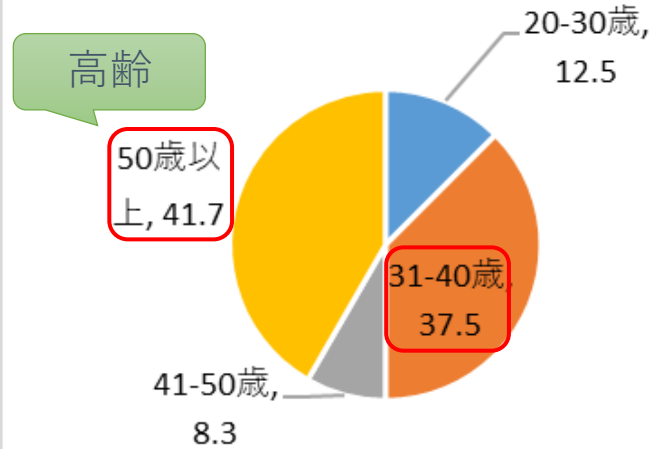
保育者	F1	F2	F3	G1	G2	G3	H1	H2	I1	I2	J1
CBCC	F	F	F	G	G	G	H	H	I	I	J
性別	女性	女性	男性	女性	女性	女性	女性	女性	男性	女性	女性
年齢	30代	50代	20代	70代	30代	30代	30代	50代	30代	20代	20代
教育水準	前期中高等学校	初等教育	前期中高等学校	初等教育	前期中高等学校	前期中高等学校	初等教育	前期中高等学校	初等教育	初等教育	前期中高等学校
勤務年数(年)	23	23	10	18	2	5	2	17	2	4	1
トレーニングの回数	2	1	無	3	1	1	無	2	無	1	無
給料	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無

# インタビュー調査した保育者の属性

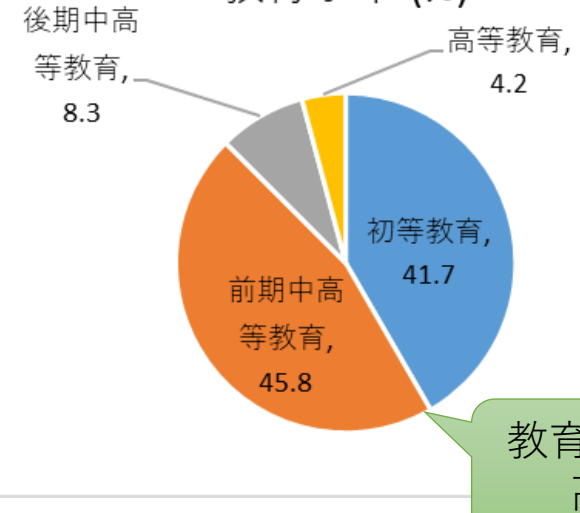
## 性別 (%)



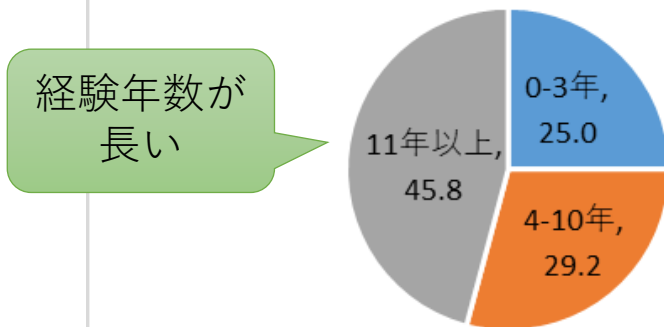
## 年齢 (%)



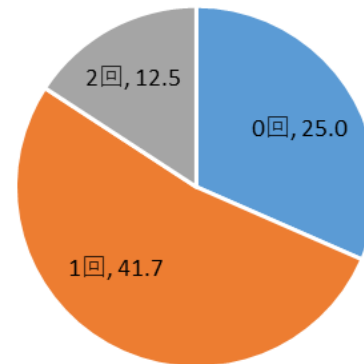
## 教育水準 (%)



## 経験年数 (%)



## 受講したトレーニングの回数 (%)



**特徴**  
教育水準が高く  
経験年数が長い

# 保育者が継続して運営できる要因

	要因	インタビュー内容
1	子どもが好きなこととコミュニティのため	<ul style="list-style-type: none"><li>「子どもたちがコミュニティ内で遊んでいる状況を見て、子どもたちを集めて、自宅や木の下でお世話を始めた」→「アルファベットや数字などを教えて始めた」</li><li>自分たちのコミュニティの子どもは、自分たちで育てるという意識が高かった</li></ul>
2	就学前教育の重要性や小学校との繋がり大切さ	<ul style="list-style-type: none"><li>就学前教育へのアクセスはまだ約半数であるが、保育者は小学校に入る前に準備をしておくことが大切であると考えていた</li></ul>
3	保育者の教育水準と過去の経験	<ul style="list-style-type: none"><li>保育者は、コミュニティの中では学歴が高く、初等学校や前期中等学校を修了していたが、初等教育の教員資格は持っておらず、小学校で働くことはできなかった</li><li>自分が今まで経験してきた知識で保育や教育ができると考えていた</li></ul>
4	保育者同士で助け合い	<ul style="list-style-type: none"><li>多くの施設では、設立当時からの保育者が中心となって運営していたが、近年、高齢になってきたため、若手の保育者が手伝っていた</li><li>若手の保育者は、最初に創めた保育者の活動に賞賛し、サポートをしたいという思いから始めていた</li></ul>
5	柔軟な施設の運営体制	<ul style="list-style-type: none"><li>コミュニティの無償の施設で無償のボランティア保育者ということで、都合に応じて休日にすることが容易であった</li></ul>

# 第2回目の調査（2024年8～9月, 12月）

# CBCC5施設の概要（調査：2023～2024年）

CBCC	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
TA	M	M	O	N	N	M	O	N	M	M
設立	2012	2021	2004	2009	2009	1999	2004	2005	2017	2021
開園時間	8:00 - 12:00	8:00-12:00	7:30-10:30	8:00-11:30	8:00-11:30	7:30-12:00	8:00-12:00	8:00-10:30	7:30-11:00	9:00-11:00
園児数	47	35	22	74	115	48	42	45	45	65
保育者の数	2	3	2	4	4	3	4	4	2	4
施設	コミュニティの建物	CBCC (2011年コミュニティによる建設)	教会	CBCC (2012年ドナーによる建設)	CBCC (2012年ドナーによる建設)	CBCC (2005年ドナーによる建設)	CBCC (2009年ドナーによる建設)	CBCC (2011年ドナーによる建設)	コミュニティの建物	教会
施設費	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料	無料
授業料	1ヶ月 MK1000(\$0.8)	無料	無料	無料	無料	無料 ポリッジ用の粉：50/月	無料	無料	1ヶ月 MK1000(\$0.8)	無料
ポリッジ	無	無	無	有	有	有	無	有	無	無
CBCC委員会の役員数	3	10	10	10	10	10	8	0	10	10
CBCC委員会の会合の頻度	無	1ヶ月に1回	無	1学期に6回	1学期に6回	1ヶ月に1回	1学期に1回	無	常にWhatsApp group	1ヶ月に1回
コミュニティのサポート	無	施設建設	無	ポリッジの準備 清掃	ポリッジの準備 清掃 教材準備	ポリッジの準備	無	ポリッジの準備 清掃 施設建設	清掃	清掃

# インタビュー調査した保育者5名（調査：2023～2024年）

- 各施設で中心的な役割を担っている5名を選択

CBCC	A			B			C		D						E				
保育者	A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	D1	D2	D3	D4	D5	D6	E1	E2	E3	E4	E5
性別	女性	男性	女性	女性	男性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	男性	女性	女性	女性	女性	女性	女性
年齢	50代	30代	30代	50代	50代	30代	40代	30代	60代	30代	60代	30代	30代	50代	50代	40代	40代	50代	50代
教育水準	初等教育	前期中高等学校	前期中高等学校	初等教育	カレッジ	前期中高等学校	後期中高等教育	後期中高等教育	初等教育	前期中高等学校	初等教育	前期中高等学校	前期中高等学校	初等教育	初等教育	前期中高等学校	前期中高等学校	前期中高等学校	初等教育
勤務年数(年)	22	7	1	1	1	1	12	11	12	12	11	1	1	6	6	5	5	13	6
トレーニングの回数	1	無	無	1	無	無	1	1	3	3	3	1	1	1	2	1	1	1	1
給料	無	無	無	無	無	無	無	無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有

CBCC	F			G			H		I		J
保育者	F1	F2	F3	G1	G2	G3	H1	H2	I1	I2	J1
性別	女性	女性	男性	女性	女性	女性	女性	女性	男性	女性	女性
年齢	30代	50代	20代	70代	30代	30代	30代	50代	30代	20代	20代
教育水準	前期中高等学校	初等教育	前期中高等学校	初等教育	前期中高等学校	前期中高等学校	初等教育	前期中高等学校	初等教育	初等教育	前期中高等学校
勤務年数(年)	23	23	10	18	2	5	2	17	2	4	1
トレーニングの回数	2	1	無	3	1	1	無	2	無	1	無
給料	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無

# 結果

保育者	性別	年齢	教育水準	勤務年数	研修回数	給料	保育者になった経緯と活動継続するモチベーション
A1	女性	50代	初等教育	22	1	無	<p>I was born here. After attending primary school, I got married and moved to Salima with my husband, who was a fisherman. After some time, we returned to Nkhata Bay, where he continued his work as a fisherman. Unfortunately, he passed away. After his death, I began teaching children in my community. Later, I decided to open a CBCC (Community-Based Childcare Centre) because I wanted to support my community. I also completed primary school, and I now use the knowledge I gained to help young children. I love working with kids.</p>
C1	女性	40代	後期中等教育	12	1	無	<p>I grew up in Mzimba and attended primary school there. I was selected to participate in Ekwendeni Community Day Secondary School. Later, I got married—I met my husband during that time. Since he is from this area, I moved here after we got married. He is a farmer, and we have some land and a cow. I love children and enjoy this work. I also really like this community. Since I graduated from secondary school, I have been able to teach young children. I noticed that many children struggled when they started primary school without any preparation, so I gathered them at my house and began teaching them myself.</p>

- 青：故郷
- 緑：社会経済的状况
- 橙：教育水準
- 赤：活動の意義
- 紫：満足感
- 黄：過去の経験

# まとめ

	インタビュー内容	キーワード	先行研究
1	保育者自身の初等教育や中等教育経験から教育の重要性を認識している 就学前教育や小学校との繋がりが重要と考えている 保育者はコミュニティで大切な役割を果たしている、コミュニティは子どもたちを教育をして欲しいと願っている	活動の意義 活動が明確で望ましい	活動自体の望ましさ（安藤・広瀬, 1999） 利他心・理念の実現テーマや対象への共感（桜井, 2005）
2	保育者自身の初等教育や中等教育経験から、自らが教育者や保育者になることができる、自分自身の経験を活かすことができる、保育者は小学校の免許がないが、就学前教育の内容であれば教えることができる	高い教育水準	個人的要因：性別・年齢・活動経験の有無（桜井, 2005） 業務内容（桜井, 2005）
3	コミュニティでは保育者はある程度裕福（夫に現金収入がある、家庭に農作物がある、自分自身が働いて現金収入を得ることができる）である	ある程度裕福な社会経済的状況	経済状況（桜井, 2005）
4	この土地が故郷である、コミュニティの役に立ちたい、コミュニティへの愛着心がある、他の土地に移動することはほとんど考えられない コミュニティの子どもたちを育てている	地域への帰属意識 社会的つながり	他者からの認知・地域意識（米澤, 2010） 感謝（Cho, et al., 2020） 社会的つながり（伊藤, 2011）
5	子どもたちを育てた経験がある 過去に子どもに関わる仕事をした	過去の経験	活動経験の有無（桜井, 2005）
6	子どもたちが好き	楽しさ	楽しみ（米澤, 2010）
7	子どもの成長を見ることが生きがい、子どもたちから学ぶ	達成感 生きがい	価値(Clary et al., 1998; Clary and Snyder, 1999) 個人として得られるもの（安藤・広瀬, 1999）
8	CBCCは場所の確保、短時間、資金なしでも可能、保育者同士の助け合い、柔軟な運営体制、就学前教育は指導内容が明確ではない	活動のしやすさ 柔軟な活動	場所・時間・資金・人的資源（米澤, 2010） 計画の柔軟性（Cho, et al., 2020）
9	保育者のトレーニングが受けられた、コミュニティから感謝された、ソープをもらった	報酬	報酬（Cho, et al., 2020）
10	保育者がいない、政府が運営できていない	人材不足	人材不足（元嶋・杉山, 2022）

# 参考文献

- 安藤香織・広瀬幸雄（1999）「環境ボランティア団体における活動継続意図・積極的活動意図の規定因」『社会心理学研究』15, 90-99.
- 伊藤忠弘（2011）「ボランティア活動の動機の検討」『『学習院大学文学部研究年報』58, 35-55.
- 桜井政成（2005）「ライフサイクルからみたボランティア活動継続要因の差異」『ノンプロフィット・レビュー』5(2), 103-113.
- 田中富美子・佐藤裕見子・小石真子（2021）「地域における子育て支援ボランティア活動の継続要因」『日健医誌』30(1), 108-114.
- 谷原舞・田中卓也・中島眞吾・小久保圭一郎・岡野聡子（2022）「絵本の読み聞かせボランティア活動の継続要因に関する研究－20年以上の経験を有するボランティアへのインタビューを通して－」『大阪信愛学院短期大学』57, 1-10.
- 元嶋菜美香・杉山佳生（2022）「スポーツボランティアの参加・継続要因に関する研究動向：定義と活動実態の乖離に着目して」『生涯スポーツ研究』19, 27-36.
- 米澤美保子（2010）「ボランティア活動の継続要因」『関西福祉科学大学紀要』14, 31-41.
- Cho, H., Wong, Z. E., & Chiu, W. (2020). The effect of volunteer management on intention to continue volunteering: A mediating role of job satisfaction of volunteers. *Sage Open*, 10(2), 2158244020920588.
- Clary, E. G., Snyder, M., Ridge, R. D., Copeland, J., Stukas, A. A., Haugen, J., & Miene, P. (1998). Understanding and assessing the motivations of volunteers: a functional approach. *Journal of personality and social psychology*, 74(6), 1516.
- Clary, E. G., & Snyder, M. (1999). The motivations to volunteer: Theoretical and practical considerations. *Current directions in psychological science*, 8(5), 156-159.

ご清聴ありがとうございました

Email: [tanikyo@hiroshima-u.ac.jp](mailto:tanikyo@hiroshima-u.ac.jp)

## 結果

保育者	性別	年齢	教育水準	勤務年数(年)	研修回数	給料	保育者になった経緯と活動継続するモチベーション 青：故郷、緑：社会経済的状况、橙：教育水準、赤：活動の意義、紫：満足感、黄：過去の経験
A1	女性	50代	初等教育	22	1	無	I was born here. After attending primary school, I got married and moved to Salima with my husband, who was a fisherman. After some time, we returned to Nkhata Bay, where he continued his work as a fisherman. Unfortunately, he passed away. After his death, I began teaching children in my community. Later, I decided to open a CBCC (Community-Based Childcare Centre) because I wanted to support my community. I also completed primary school, and I now use the knowledge I gained to help young children. I love working with kids.
B1	女性	50代	初等教育	1	1	無	I grew up in Mangochi and graduated from primary school. I worked for a while at a CBCC. Later, I got married and had four children. However, my husband married another woman, so I had to raise the children on my own. I started working with a project led by foreigners that focused on supporting child development. When my father became sick, I returned to his hometown, Nkhata Bay, to take care of him. After that, I began working in nursery schools run by foreigners. When I heard that a CBCC had opened here, I decided to join. I also run a small business selling vegetables. Thanks to the CBCC, children who move on to Grade 1 do not have problems adjusting.
C1	女性	40代	後期中高等教育	12	1	無	I grew up in Mzimba and attended primary school there. I was selected to participate in Ekwendeni Community Day Secondary School. Later, I got married—I met my husband during that time. Since he is from this area, I moved here after we got married. He is a farmer, and we have some land and a cow. I love children and enjoy this work. I also really like this community. Since I graduated from secondary school, I have been able to teach young children. I noticed that many children struggled when they started primary school without any preparation, so I gathered them at my house and began teaching them myself.
D2	女性	30代	前期中高等学校	12	3	無	I grew up in Salima and attended primary school there. Since my father is from Nkhata Bay, I later moved to his hometown. I continued my education here, attending both primary school and a Community Day Secondary School (CDSS). I eventually got married—my husband is a fisherman. I have always admired teaching and caring for children. After a friend introduced me to Mugodi, where children were being taught, I started attending regularly. Later, when I moved to this area, I found a friend teaching children, so I asked if I could join her.
E4	女性	50代	前期中高等学校	13	1	無	I attended both primary and secondary school here. After that, I got married and had children, but sadly, my husband passed away. To support my family, I started a small business selling vegetables. I noticed many young children just playing around the houses in the community. Seeing this, I decided to use my own home to teach them. Later, the community recognized the value of what I was doing and supported me by helping build a shelter for the children. Eventually, SAFE came and agreed to create a proper building for us.